

事業所名 グループホーム古都の森

日付 平成 21 年 1 月 30 日

評価機関名 有限会社 アウルメディカルサービス

評価調査員: 健康運動指導士
実務経験10年以上

ホームヘルパー2級
実務経験3年以上

自主評価結果を見る (評価内容と一緒に添付しています。)

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)
(記述式)

グループホーム古都の森は、市街化が進んでいるが、まだ周辺に田畑の残る閑静な田園地帯に介護老人保健施設に隣接して建てられている。経営母体である診療所を核とする医療法人は、介護老人保健施設、在宅介護支援センターなど多機能を有している。

グループホームの施設長の志は高く、他のグループホームで受け入れを断られた認知症の人を受け入れ、自立に向けた支援に取り組んだり、吉備国際大学の理学療法学科と共同で独自の体操を考案したり、運動器の機能向上の勉強会を継続するなど、介護予防に積極的に取り組んでいる。また職員の資質向上を図るため(入居者のためでもある)より良い環境を作ろうと懸命である。そして職員もそれに応えようと努力している。特筆すべきことは、亡くなられた入居者の家族が、今でも時々ホームを訪れていることで、入居者の家族と職員、あるいは他の入居者家族との信頼関係の深さがうかがわれる。

特に改善の余地があると思われる点(記述式)

職員の人数が多いこともあって、ユニット間の連携やコミュニケーションが取り難いようである。職員の意識が変わるのに時間がかかるかもしれないが、各ユニットでそれぞれ責任を明確化するような工夫が何か必要ではないだろうか。

2. 評価結果(詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	介護の継続性を重視する中で、職員同士の申し送り、とりわけ日勤から夜勤、夜勤から日勤の交替時の申し送りを確実に行うようにしている。介護の職場はもはや女性の職場ではなく、男女協同参画の職場であること、つまり感情に左右されずに合理性を重視し、チームワークに注意を払って業務が遂行できるように、職員の意識改革を促進している。入居者同士が相互に助け合い、百歳を過ぎても元気で過ごせるグループホームをめざしている。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	入居者は自分が何故ここに居るのか分からず、不安な気持ちでいるということを理解して、普段の関わりの中でどういふときに不穏な状態になるのか把握し、兆候があれば未然に察知して、入居者の気持ちを落ち着かせる言葉をかけたり、ときに職員が家族の役を演じたりして、不穏な状態になるのを防ぐようにしている。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	職員全員がチームプレイで、入居者一人ひとりの状態をよく観察し、入居者の個性を認め、強制することなく自立を支援する介護の徹底を図っている。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	全職員を対象に、週一回だが、半年に渡り継続的に医療法人全体で研修を行っている。また、吉備国際大学の理学療法学科の先生を講師に、職員がリハビリの知識と技能を学び、研鑽している。認知症の方の言動は理解できないのが前提であり、偏見や先入観をもたずに、よく観察し、入居者の思いを理解し、潜在的な能力を引き出せるよう努力している。		